（第三種郵便物認可）

夕刊
磐城新聞
八月三日發行
（日曜祭日翌日休刊）

俳人一草の死

山寺獨語（二）

島田忠夫

□

――應急手當を加へたがつひに絶命、急報により夫人いとさんもかけつけ、悲歎にくれてゐるが、大井署で取調べた結果國島は精神病の血統があり、實母は數年前發狂して縊死を遂げ實弟も目下發狂入院中で今度は自分がこのいまはしい血の狂ひに直面することを豫期して、煩悶の末極度の神經衰弱にかゝり――（東朝）これが一草君の死因であつた

□

僕は更に一草君の煩悶の原因を知つてゐる。彼の父君は早世されたが、鎌倉町でかなり盛大に藥商を營んでゐた。それが、未だ一草君の幼時に父君は死去され叔父の米國歸りの某がこの店舖へ乘込んで來て遂ひに店を奪つて了つた

現に鎌倉町にその叔父は堂々と店を張つてをり長男である一草君は他に家を營み、叔父から別に利益を貰ふといふのでもなかつた

殊に震災當時は悲慘であり、一時夫妻して京都の方へ去つたりした。その後いといさんは實姉である早見君子さんに習ふたか、美容術を營み、巴里院として鎌倉の笹塚に居を構へた。一草君は頭を病んでぶら〳〵して何も出來ず。夫人いとさんに養はれてゐた。虛子先生の許に出入して句作にふけつたり、喜多流の謠曲を習つたりしてゐた。熱心に朝鮮の壺をあつめたり綿綿を蒐集したりしたのもその頃だ。夫人いとさんの盡し方は實に涙ぐましい位であつた

□

その後、瑞西バーゼル會社員になるまでに健康になり、社用で水戸へも平へも仙臺へも行くやうになつた昨秋水戸で會つた時は、こんど鎌倉にささやかな二階家を建てたと言ふてゐた。みな家内が働いたやうなものですと笑つてゐた。ぼくはこんな半病人ですから、いつ會社を辭めるか知れぬそしたら俳句の宗匠にでもなりませうかねと笑つた

一草君は大津町へ悴人市原陸郎國手を訪ねるから紹介狀をかけと言ふてゐた。五浦にも遊んで句作したい平潟にも廻りたいと言ふてゐた。しかし、つひに大津町へは寄らなかつたらしい

□

俳人國島一草君の死を僕は滯在中の羽黑月山寺で知つた。その夕刻よつぽど鎌倉へ發つてしたしく弔はふと思つたのであつたが、また考へると未亡人になつたいといさんを見るのが悲しくてならぬ。あれまでに盡して、あんな氣ままにさして來て今死なれてはいといさんも諦められまい

昭和三年の秋であつたか僕の鎌倉在豊田村の山居に芋堀りの會を催した。あの時、小說家の北村壽夫氏や佐藤孝二博士など三十餘名のうちに混つて國島一草夫妻も來てくれた。そして何か一二句作り記念撮影の中にも夫妻で入つてゐる。あの一草が死んだのは哀れでならぬ。

（附記）一草君の句を少し引かうと思つたが、手許に『ホトトギス』も『玉藻』もない。尙、一草君は東北大學出身の藥學士であつた

磐新歌壇

小山田滋選

里木行友

○咲き初めし紅きダリヤの一もとはやけて居りけり水足らぬらし

○たそがれを救濟工事の少女等はざはめき合ひて歸り行きけり

○さ庭邊のこの梧桐の葉のかげに毛虫這へるを淋しく見てをり

雨引山

飯塚幸穗

○いつはりを言ひ來し吾か草いきるる雨引山の道にかゝりつ

○下草のぬれゆく見ればともしらに山に降る雨の久しかるらし

○澤水の上にはびこる山羊齒(やましだ)は新萠(にひも)えの色あをくすがしき

○墓原より歩みきたりて本堂の裝飾ゆかしき構へはしたしめず

○ま新しきコンクリート垣に寄りて見おろす崖の下には棕梠生ひ並ぶ

春子さんに

甘南備三十二

三

それは丁度今宵の樣なのである、忙がしいさゝやきが幾打つ波の音に乘つて押寄せてくる。私は快い幻想から徐々に覺めて行つた。音は移るともなしに移つて月は夏の朝に相應しい冷やかな光りで私の全身を照らしてゐる。人々は宿命的な鬪爭に疲れた體を與へられた一夜の休息に聲をひそめ姿を消して、天地は靜寂の中に沈んでゐる、其の中に只小川の囁きのみが幽寂に響いてゐる、其の夜更な何者かを語る樣な響それは今宵の私には魅力に滿ちたものであつた。私は醉ふが如く其の響に聞とれた。私は不圖其響が……DEATH……と響く樣に思はれた……DEATH……其刹那私は悄哀そのものゝ河原に立つたHの姿を思ひ出した。死は嚴肅である。

人生のすべての事拓の上に超然として絶對的の偉大さを以つて擴がつてゐる。死は偉大であるそれがこの流るゝ川の如く逝いて又舊に返らぬから偉大であると云ふのではなく我々をして最も深く考へしめ傷心せしめ、そして私等の人生を最も意義深くせしむるから偉大なのである、私は死を知らない。而もそれは私等の辿る暗路の涯に絶對の力時によつて我々を待つてゐる我々を避けることができない。そしてオロラの下に涯から涯へと漂泊ふジプシイの樣に生より死へと辿つてゐるのである。今日木影に喜びを感じ愛を知つて樂しい生を享けても死のとばりが開いて我々を招ぐ時は明日にも異つた道と又何處へか辿らねばならない。まして永遠に相逢ふ事がないのである。この樣に考へると人生は果敢ないものである然しこうした今宵の樣な大自然の寂莫な幼稚な現實の眠から覺めて絶大の靈を感じた刹那私は上の光明を見法悅とを感ずるのであつた自己が生きてゐる、と云ふ實際それは永遠に消ゆるものではない。この宇宙に自己の生命の跡を印すればそれが如何に微なものであつても、それの價値は絶對的なものである『死を考ふるは死滅を考ふるにあらずして永生を考ふるなり』これは高山林次郎の言葉である我々の一日一日の生命、それは限りない永遠の生命の一歩一歩である。大海に注ぐ水の滴一滴である私は一日一日の生命をより以上充實せしめ價値あるものとせねばならない。そして待ちつゝある死に充分の用意を持たねばならない。

自己の造る生命をより美しくせんとして人々は毎日競ひ爭つてゐる、それがために短い生命をむしばみ言ふて居るのではなからうか然し私は美しい生命がその醜い鬪爭から生れて來ると云ふことは信じられない……時は偉大なる破壞者であるから……私はカルデアの牧人の見し輝きが望ましくなつた、そしたら我々は自己の生命をむしばみ損ふ事なしに永遠に殘すことの出來ようにそして美しい人生が開かれるであらうのに。

拈華微笑

九日間に四十六個所。精勇的ベロ行脚は濡更洒落でもあるまい
◇
犬養健氏の來援人氣沸騰まさに頃來の水銀柱そこのけの概
◇
今夜磐中選手歸る。健闘に酬ゆるは驛頭に迎ふるが第一
◇
けふ二の丑。牛鰻、うどん等々ウの字オン。パレード
◇
有閑階級ウみへ勞働者は熱砂にウだる
黑猫は爪をとぐ屋根の上。

一つの風景

郡司篤孝

百姓の下した鍬にふれて
か
芋畑のもれ上つた土壤の
わきに
野鼠が一匹
無雜作に死にかゝつてゐ
る
さつきまで
眞暗な土の中で
あの芋を
どんなにか欲しがつてゐ
たであらう野鼠
あゝ
秋も近いうらゝかな風景
のなかで
一つの芋も食へずに
一匹の野鼠が死んでゐる

孤獨

逸名子

吹く風の音
散る雪片
廣い雪の原を歩む
影一つ、それは私だ。
暗い氣持で
唯かうして歩いてゐる
自分の心を誰が知らう―
生みの母とも言ざかへも
した
あくまでも温かい父には
氣の毒だが
どうして母を憎む氣にな
るのだらう。

黑猫

三日月を招きつゝ

吉田眼科病院

社會の今日

8月4日
――△長藩英佛米蘭四國の軍艦と下關に戰ふ(元治元)△富士金明銀明の二水初氷(昭和五)△軍人遺族徽章を制定す(同六)△大每主催全日本都市對抗野球大會開催(同七)

○

夏虫やあわたゞしげに灯に集ふ　文山人

自轉車は月に向ひて風涼し、はるかに低く花火あがるも　橋本貫一

講談 劍火無情

(83) 津屋義人作　菅野祐作畫

嵐の前（一）

勤王黨としては水戸の國老田丸稻之右工門に國學者藤田東湖の次男小四郎が筑波山に楯籠もつてゐる上に水戸の分家松平大炊頭と水戸藩中文武兩道に秀でた武田伊賀守、卽ち耕雲齋正生が合同してこれを助けるのだから、水戸城内の佐幕派たる市川三左エ門朝比奈彌太郎が如何に奮鬪しても確かに勤王黨の大勝利は明白となつた

殊に他藩の士が其間を斡旋し、又筑波の合戰にも比類なき戰功を顯してゐる。それは無論秋岡丹三郎と田岡大助の二人であつた。德川三家の一で天下副將軍と言はれる水戸中納言が全く勤王黨となれば、もう江戸の德川將軍は倒るゝより外なく、玆に佐幕黨全滅となる譯である

が然し、遺憾な事には水藩の士の多數が、甚だ狹量であつた、成功の端緒に就くと、もう他藩士排斥の火の手を揚げた

『水藩のみで成すべき事を佐賀藩の秋岡、土藩の田岡兩人を引入れたのは、田丸氏の失策である。功を他藩士に半ば奪はれて了ふのだ水戸城を乘取つて市川朝比奈を滅ぼし、中納言を江戸より迎へた後、秋岡、田岡の兩士は田丸、藤田の兩氏と相並んだ功勞者となるだらう。今にして秋岡、田岡を除かずば悔を千載に貽す事となる。他藩の力を借りて成就したとあつては水藩の大恥辱である』

斯うした說が最も有力となつて、竊に兩士排斥運動が起り出した。早くも之を探り知つたのは機敏な田岡大助の大角和尙であつた

筑波山麓の隱れ家、そこは敵も知らず味方さへ知らぬ一農家に、秋岡丹三郎を訪ふた田岡大助

『秋岡、貴公の盡力で、武田耕雲齋と田丸稻之右工門とを結び附け、身共は水戸城内の秘密を知つては筑波へ報告し、內外相應じて今日までの大成をなし得たのだ。けれどもそれは水泡に歸した。貴公は田丸の娘松子の婿筑波は去れまいから唯々身に用心して居るが可い、身共は今日限り當國を去る……』と斯う言つたのみでは判るまいが、つく波山の水藩は十中八九人まで他藩の者を疎外視し、小膽にも功を奪はれやうものと考へる。それは無關心であれば可いやうなものだが、若しも卑怯な振舞して危害を此身に加へぬとも限らぬ、尋常に名乘つて鬪ふならば命を落したとて悔みはせぬが名もなき奴輩の爲、密に刺されて死ぬのは厭だ、身共まだ命惜しい。貴公は田丸に緣する者ゆゑ左樣な事はしまいが、隨分共に警戒を怠らぬやうにさつしやい』

恬淡水の如き大助だが友情には厚く、『勇士丹三郎に注意して別れの言葉を述べた

丹三郎は憤然として

『他藩疎外の事は知らぬでもないが、左樣にまで濃厚になつてゐた事は知らなかつた。田岡能く言つて吳れた。縱令松子の緣ありとも豫てより松子も覺悟で、斯樣に別れてゐるのだ、何の妻の緣に依て勤王の大義に働く事を廢めやうか、何の水戸藩のみに盡くす事はない、素より貴公と身共は已が藩では若年者の容られぬを慨し、同樣に他藩へ食入つて佐幕派を勤王黨に導きつゝあるのだ、水藩にも是だけ盡くしたら、もう可からうではないか、之より何れへなりとも向つて、勤王の爲、お互に華々しく鬪はうではないか』

『フーム、そんなら貴公は妻の愛も捨てゝ走ると言ふか』

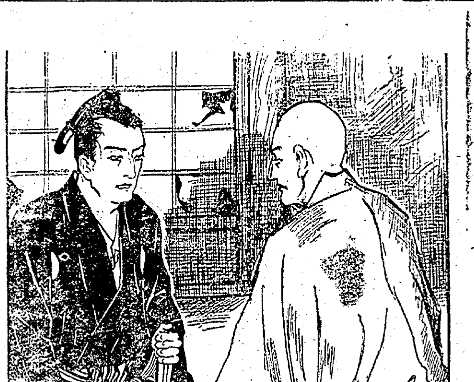
『オ、勿論の事だ、何れへなりとも赴く、だが田岡何方へ向はうか』

『可しッ、さういふ決心なら豫て誓つた通り生れた時は別々でも死は一緒の覺悟で、共々今迄通り勤王の爲に盡さう……それには唯此儘立ち去るも興がない。磐船山と筑波山へ置き土産をして行かう。又貴公も田丸氏や松子殿に何なりとも書面等にて……』

『イヤ〳〵、寸毫未練はない、書面も遺はすまい。其の方が男らしい』

『勤王の爲めとは言ひながら、未だ結婚の式も擧げず唯父の許したといふのみの女夫仲で、十日も添はずして最愛の妻を捨てねばならぬといふは、ア、―大角和尙も世の無常を今更ながら感じ申した』

有勢無頓着の大助も常にない萎れ方であつた。



海へ!!
そしたら!
初音に
毎年の通り四倉海水浴の初音は、ほがらか＝設備完全＝で皆樣を御待ちして居ります。
四倉海水浴
脫衣賣店 初音

流行パラソルの特價品陳列
ジョセット フラット 二重張……三圓八十錢
ツルヤ 電一四〇

大藏省允許
磐城無盡
簡易ノ金融
趣味ノ貯蓄
斷然群ヲ拔ク
共存共榮
平町電話二七八番

相變らず御願致します土用二の丑(八月三日)の牛肉賣出し。
値段左の通り
並肉 金二十錢……ロース 金五十錢
上肉 金三十錢……ヒレ 金六十錢
三二三や
電話三三三

土用二の丑(八月三日)
大蒲燒
うな丼
南町
松本樓
電話百十三番
多少に不拘御用命の程を御願致ます

新盆用戒名入提灯
技術本意安値自慢……!!
大小共何卒御註文の程御願致ます。
金子提灯店
平町才槌小路

暑中御伺
平驛前
甲陽館
武田コウ
電一四八番

夜間診療
胃腸 內科 十二指腸虫病 專門
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門
松村胃腸性病科醫院
(平町南町電一〇七番)

平・四倉間 乘合
自動車往復券發賣
暑中御見舞の奉仕トシテ……
八月二日ヨリ往復券金四十錢ニテ發賣致シ升
御乘車ノ場合ハ組合ノマークアル自動車ヲ御利用下サイ。
平町四丁目
平 四倉 乘合々同組合
電話五九四

內外材
建築材
建具材
入
阿部材木店
磐城國平町(公園下)
電話四九四番

九日間に四十六ヶ所 矢繼早の政友派遊説
愈々明後五日から開始

赤坂元代議士を擁立した石城政友部會では既報の如く昨二日供託の手續を了した上今三日の大安日をトして二丁目に事務所を開設し推薦狀の差立て演説會の日割決定其他各般の準備に着手した、遊説は大体明後五日から郡下四十六ヶ所に於て催す豫定であると

（五日）磐崎、勿來、泉、川部、石住、上遠野（六日）草野、神谷、大野、大浦、入遠野、田入（七日）鹿島、飯野、高久、夏井、渡邊、田部（八日）赤井、上小川、江名、豐間、山田、錦（九日）川前、平窪、好間（十日）植田、内郷、四倉、平町（聚樂館）（十一日）玉川、小名濱、箕輪、湯本（十二日）合戸、中三坂、下市萱、平町（第三）（十三日）内郷（御厩、綴、白水安生寺）

犬養健氏 應援 十日頃來平

代議士犬養健氏は大体來る十日頃來郡二日間に亘り左記六ヶ所で應援演説をなす

植田、四倉、内郷、平、小名、湯本

◦◦◦◦◦ 遊戯講習終る　平第二校で一日から今三日迄開催の女教員遊戯講習會は出席者毎日百五十七名で頗る盛會であつたと

郡下壯丁檢査 愈々十九日から第一校で
總員二千百十四名

郡下二千百十四名の今年度壯丁檢査は來る十九日の植田六十九、渡邊二十五、泉六十の一町二ヶ村百五十四名を皮切りに福島聯隊區司令官黒岩義勝大佐、縣社寺兵事課長水谷平吉兩徵兵官以下により何れも平第一校講堂に執行されるが學術試驗委員は從來の曾我第一、津出第二、赤津第三各校長の外坂内第一、金澤第二、新家の三氏席が加はると

冷靜水の如き田中の好投
終始敵の强打を封ず
際立つて軍中に光る石坂と小井戸
遠野を屠つた磐中の陣容

◇本年も東北制覇を以て自他共に許した强豪遠野中學は磐城中學田中の下手投げのスロウボールと云ふ伏兵に斬立てられ大會劈頭戰に敢なくも一敗地に塗れるに至つた

◇磐中の田中はプレートを巧みに踏み替へアンダーハンドのスローボールでコーナーを狙つた別して打者の近くから手許へ浮上る緩球に遠中の强打は全く封鎖されて居た

◇これに反して遠中の村津は肩が荒れて最初から不調を示し第一回二死後一走者を置いて石坂へ二三後眞ん中へ直球を投じて大きく打たれこれが最後まで不運となつた

◇磐中打者は村津の直球を見のがさず打ちまくり三回四回に好機を迎へたが走者に機を見る敏捷さがなく徹底的の得點を上げ得なかつた、磐中の田中は

◇二回遠中の待球に危かつたが滿壘のピンチを捕手の失策で一點を許したのみで切拔け以後回を逐ふに従つて、冷靜水の如き

◇好投を續け特に打者の調子を外さず好投を見せ遠中打者は後半全く焦慮の中に迫ひ込まれて惡球を振り捲つてミートし得ず

◇遠中の敗戰は濃厚となつて來た、遠中の村津は後半遲れ馳せの調子を取返し外角に磐中を封じたが八回磐中の攻擊は遊擊の失策から破綻となり一死者二壘の時二壘手が

◇小井戸のゴロを名つて三壘に無謀の送球をし完全に遠中を絶望の淵に叩き込んで仕舞つた、斯くして磐中は强豪を倒したがその殊勳は

◇勿論田中の完投に歸さねばならぬが遊擊小井戸の守備範圍攻守と一壘石坂が長身を利用しての好守と强打が一軍の中に光つてゐた　（三原生）

選手一行 今夕歸平

雄圖空しく盛中に惜敗の磐中野球軍は今三日午後八時四十四分着で歸平直にマルトモホールに歡迎會（會費一圓）を開くので多數の出席を望むと

東北大會を前に 專心練習に精進
昨今の平商庭球選手

縣下の粒えりチームを一蹴斷然優勝した平商庭球部安島木田、塚本本田の二組は愈々來る廿四日仙臺で催される全東北中等學校の處女出場に毎日朝から午後六時半の黄昏時まで火の出る樣な猛練習を續けて居るが主將安島君は語る

近く平倶の根本さんをコーチャに迎へて最後の練習をするつもりだ、我チームの欠點であるサーブに力を盡し精一ぱい鬪ふのみだ

東北鑛山野球戰
來月三、四日仙台で開催
郡下三社との組合せ決る

後藤スポーツ局長に野球通諸井鑛政課長を配する仙台鑛山監督局の野球熱が沸騰點に達して居る今日毎夜毎目まぐるしい事業の第一線に活躍する鑛山人の神經を緩和するにはスポーツに限る、そして團體的に協力一致の精神を涵養するには野球に限ると云ふ見地から鑛山協會東北支部は管内鑛山對抗野球戰なる快擧を決行する事になり今後毎年開催する方針である旨既報の通りであるが期日は九月三日、四日參加チーム組合せで左の如く決定した

A
日石（秋田）―磐城
の勝者―入山

B
尾去澤（岩手）―荒川（秋田）
松尾（同）―古河

決勝戰
ABの勝者

磐女水泳講習

磐城高女の水泳講習會は今三日から久の濱海岸で開催したが參加六十餘名で講師は久の濱小學校訓導千葉喜孝氏他磐女教諭で講習最終日には競泳大會あり盛況を期待されてゐる

涼快の四倉から
平第一臨海學校通信（1）

眠れぬ其の前夜

眠らうとしても眠れないあのつんとくる磯の香、はてしない大海原、美しい人魚の群、色々の有樣が走馬燈の樣に浮んで目は益々みえて來る。一週間も二週間も前から待ちに待つて居たのにいよいよ明日は行けるのだ……。その時遠くからかすかに汽笛の音が響き、上り列車は靜かに消えて行つた

車中親への感謝

今日の天候を氣遣ひ乍ら外に出て見ると紺色の空はよく晴れ、にこやかな太陽は強い光をはなつてゐる。すがすがしい朝である。朝の用事もすつかり終り喜び勇んで停車場へ急ぐ、父さん、母さん、姉さんに送られて笑滿面にたゞよはして待つてゐる、お早う、お早うが言ひかはされる。其中先生の方々もお集りになり何時か荷物はトラックに山と積まれ吾々は車中の人となつた。何時も見馴れてゐるあたりの景色ではあるが走る汽車の窓よりの眺は又格別である。然し喜々として騷ぐその中からも自分達の幸福さがしみじみと身にしみて父母への感謝で瞼はあつくなつて來る樣である

一糸亂れぬ作業

磯の香がつんと鼻にくるなつかしい香です。吾等八日間の宿舍は舊校舍北側五教室です、八十三名の平の健兒は兵隊さんの樣にかひがひしく各班ごとに別れ一生懸命に掃除です。たちまち見違へる樣に綺麗な宿舍となりました

褌を掛るに苦心

フンドシの掛け方には苦心しました、グッ〳〵にかける人、前の方ヒラ〳〵とさげる人、いよいよわからなくなり先生や先輩の人に教へられる人、然し練習の結果なんとかしめられる樣になりました。松本先生から色々水泳上の注意をねんごろに教へられ平第一臨海學校の旗を先頭に堂々と水泳場に急ぎました。眞赤な帽子、眞赤なフンドシをした吾々八十三名の健兒は見事右往左往に人々の間を縫つて泳でゐる、やがて一同は無事元氣そのものゝ樣に歸舍、溫い錢湯で鹽からい身体を洗ひ、おいしいおやつを頂戴しそれぞれ忘れ得ぬ父母へさも誇らしげに手紙を書いてゐる

第一日無事終る

お父さん、お母さん――それから兄さん、姉さん――決して御心配なく、僕等は先生の教へを何よりもよく守ります。お洗濯からお茶椀洗は勿論、大切な共同生活に馴れ天晴れ海國男兒としてはづかしくない身体を養成し、皆々樣をアッ！と驚かしてやります。明日も天氣の樣です。初日の便りはこれでやめます。グッドナイト。（一日）

投檜（投書歡迎）

◦◦◦◦◦ 再び冷眼居士へ

愈よ本論に入る。先づ問題になつた私の『遲言二つ』であるが、之れは批評であつたか常識を述べたに過ぎなかつたかは兎に角として之れを讀んで何か言ひたいと思つたならば何故『遲言二つ』の是否論をやつてからにしないか。徒らに『お山の大將』の『タンカを切る』のと抽象的言辭を以て揶揄することは、純情なる君のために敢へてとらず。『是否論などはやるまでもなく自明のことだ』などゝいふ逃口上は此際ゆるさない。『遲言二つ』が自己陶醉であるか否かは然る後決定されることだ、左にあらためて『遲言二つ』の問題の焦點を摘記する。

1 定型律短歌作者の新興短歌批評は果して否なるか

2 磐城には『水甕』系の歌人もゐると言つた『磐城歌壇のぞき』は果して正鵠を得てゐるか、『綿密に調査』して欠陷なきものか

3 闇打ち的に覆面で物を言ふのは男子として堂々の態度であるか

最後に何か着々準備だといふが、短歌は理論鬪爭でないから血迷つちや困る。然乍ら短歌に對する見解は持論としていつでも應ずるから御安心を乞ふ。（白木英尾）

乘客吸收 宣傳
夏を當て込む鐵道

平驛に於ける去る四月以降本月現在迄の各月別乘車劵賣り上げ金高は

（四月）二六、七六五、四〇錢　（五月）二〇、〇八七、八三　（六月）一六、六三九、八四　（七月現在判明の部々）一七、六九六、三一

毎月減少の一途を辿るのみで假令一時的にせよ昨今海水浴の增收を當て込み乘客吸收の大宣傳をなしてゐる

ありし日を偲ぶ 櫻ヶ丘の集ひ
昨日磐女同窓會

磐女同窓會の夏季總集會は昨二日午前十時から同裁縫室に開催、出席百二十餘名第一回卒業生平町丹町齋藤とし子さんの開會の辭に次いで正木校長から非常時日本に直面する現代女性の重大な使命に就て訓話があり故香宗我部繁尾教諭以下物故會員九人の慰靈祭を執行了つて中川教頭、田中、鈴木、佐々木、小沼、菅波各理事教諭を中心に協議會に移り、一、來年から總集會を七月の第四日曜に開催する事二、東京、相馬其他卒業生の集團地に支部を設くること、三、記念事業費を以てピアノ一臺を購入の件は九月の役員會で決定すること等を申し合せそれより懷舊座談の茶話會に移つたが同集つた古い顏ぶれでは齋藤とし子（一回）金成きみ（十回）山崎喜代子（三回）大和田こと（六回）清水ゆき（四回）平塚うめ（四回）諸氏が見えた、因に四月同校調査による卒業生の分布を見るに

滿洲、大阪各一〇、臺灣七、南洋、樺太、北海道各五、北米三、關東州、支那、南米各一

と云つた具合で華やかな處では白耳義大使館（ブラッセル）に女事務員として活躍してゐる茨城縣大津町末廣旅館の愛娘淺田濱子（三）伴した子女のダンス、舞踊さん（十五回）などがある等あり一段の興を添へた、

本社主催 太田水穗氏講演會

八月六日午後零時半より藤田女學校にて（聽講無料）

終つて短歌會（至急本社宛課題『潮』『窓』通じて二首送稿の事。會費金拾錢）

磐城新聞社

一行七十三名が
今三日から移動講習
最初の目的地豐間へ向ふ

第十五回中堅青年移動講習會は既報の如く今三日午前十時から磐中グラウンドに於て小檜山磐中校長の開講に次ぎ西山副團長の注意あり第一日目の豐間へ向け出發したが總員七十三名で組班長左の如し

第一組長―高木上遠野小學校長、班長第一―泉村上遠野一校、第二夏井村久保木幸文、第二組長―大塚玉川小學校長、班長第三―玉川村小泉四郎、第四―好間村戸納錦平、第三組長―近藤大野小學校長、班長第五―箕輪村大和田重正、第六―四倉町外山孝一

酒の上で相手を斬る
赤井の坑夫檢擧さる

赤井村高萩居住宮城縣柴田郡槻木町生れ坑夫宮城寅太郎（三三）は昨二日午後四時頃同字佐藤末藏方で同僚の小堀藤市（四三）と飲酒中些細な事から口論の末喧嘩となり小堀に强か毆打されたのを遺恨に思ひ隣家の齋藤圓助方から鋭利な出刃庖丁を持ち來り大立廻りの上小堀の左腕顏面其他に全治三週間の重傷を負はせ目下平署川島司法主任の取調を受けて居る

四倉通信

◦◦◦◦◦ 飲食商人健診　四倉警察署管内飲食物商人の身体檢查は明四日午前九時より同署に於て執行の筈

◦◦◦◦◦ 簡閲點呼　四倉町外三ヶ村在鄕軍人簡閲點呼は明四日午前八時より四倉校庭に於て施行の筈

六百人の郡山大團体 來日曜に四倉へ

郡山驛主催の四倉海水浴團体六百名は來る六日來倉の筈

◦◦◦◦◦ 鮮魚を盜まる　四倉町字新町小港喜平宅に於て昨二日午前一時頃流しに置きたるイシモチ一樽（七貫入）價格四圓餘を、同時刻同町魚行商人ナッ方の鰹六本價格三圓五十錢餘を窃取した鼠賊あり其筋で搜査中

貸間百五十
六百餘人が滯在

四倉町の現在滯客人貸間數は百五十間、此の人數六百人が入り込み愈々海水浴氣分がみなぎつて來た

◦◦◦◦◦ 石島商會慰安會　平町石島商會では今三日四倉町本町の別宅に於て各關係職人廿餘名の慰安會を開いたと

◦◦◦◦◦ 鹽の虛空藏　神谷村鹽の虛空藏菩薩宵祭りは昨夜執行したが餘興の花火、相馬民謠などあり例年以上の雜沓を見た

◦◦◦◦◦ 交通安全協議　自動車協會平支部では四日午前九時から署會議室で通交安全デーの施設に就て協議する

◦◦ 救助　平町材木町二日雇川上松彥（五九）は幼兒五名を抱へて貧困と戰つて來たが最近失業して收入の途がないので今三日願ひ出に依り共濟事業助成會から金三圓を惠與した

◦◦ 家出　内郷村宮坑夫齊藤晃（二七）は去月初旬郡山方面へ稼ぎに出た儘音信がないので妻ハツヱから今三日平署に搜索方を願ひ出た

◦◦ 横領　平町南町煙突商野田屋瀧方店員岩手縣閉伊郡釜石村生れ小笠原明（二九）は五色町遊廓某娼妓の色香に迷ひ足繁く登樓して居る中遊興資金に窮し去月中旬舊城跡吉田金作氏方から取立てた二十八圓外前後數回に亘り貸掛金八十餘圓を横領した事發覺昨二日平署に檢擧された

自動車日歸り臨海校
第二の五百廿名豐間へ

平第二校四年以上五百二十名は四、五の兩日に亘り十四臺の乘合に分乘豐間薄磯海岸に於て日光浴、海水浴、陸上競技、燈臺見學の日歸り臨海學校を行ふと

◦◦◦◦◦ 平區新上席檢事　濱田一郎氏は來る八日磐越線午後三時五十三分で米澤から着任する

日用品物價
町役場最近調査

平町役場調査今三日現在の日用品物價左の如し

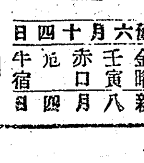
白米一等一キロ一六五厘　二等一六〇　三等一五五　白麥八五　平麥一二五　味噌並一貫匁五〇〇　醬油並升四〇〇　清酒並一〇〇〇　木炭櫓丸一貫匁二二〇　櫓割一貫匁一九〇　雜丸二〇〇　砂糖白一五〇　赤一三〇　豚上三〇〇　並二〇〇　牛上四〇〇　並二五〇

平町慶弔錄

△出生　舊城跡四山崎富次郎二男一男　一丁目五〇谷口安治長女妙子　播槌小路一四相馬郡南新田大橋本　四草野留置四男卓三

△婚姻　東京市赤布區かうがい町七九久保田良治（三三）山町八八廣瀨三技子

▲死亡　大町三〇田村郡三春町小金沺三〇佐藤タケ（三二）　胡摩澤一二〇茨城縣茨城郡鯉淵村五平七一小菅納サト子（二二）



舊六月十四日　金曜　壬寅　赤口　旭　牛宿　新八月四日

諸判定應需　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神讚館

▲一白の人　横道に外るゝ時は思外の變あり眞直に進め▲二黒の人　迷ふ事なく自己の信念に向ひ努力すれば吉▲三碧の人　衆人の同情を失はざる樣注意せば安穩とす▲四綠の人　輕卒の行動は深く愼むべし病難亦注意あれ▲五黄の人　小成に安んぜず基礎を堅むることに努めよ▲六白の人　計畫次第に進展して功果近きに現はるべし▲七赤の人　かひ無き外事に辛勞するより内を發ふべし▲八白の人　期待せる事の次第〳〵に已に近かづかんとす▲九紫の人　圖る所望に叶はずそご多かるべし進退注意

有給社員招聘

年齡　二十五才以上 五十才マデ

經驗ノ有無ヲ問ハズ奮鬪ノ士ヲ望ム
希望者ハ履歷書送附アリタシ追而面會日時ハ通知ス。

有隣生命保險株式會社
平出張所々長　鈴木健司
平町大町十九番地